

2-O-2

災害時に在宅療養者の持続的な療養生活を支える備えの検討 —訪問看護ステーションを核としたシステムの構築を目指して—

畑 吉節未
清田 はるひ

【背景】東海地震、東南海・南海地震等の巨大災害が発生する危険性が高まっている。こうした巨大災害が発生すると、広範囲な地域に甚大な被害を長期に生じさせ、医療システムをはじめとする社会経済システムが麻痺させる可能性がある。現在、地域では高齢化、医療の高度化、療養の場の多様化等に伴い医療依存度の高い療養者が増加しており、大規模災害に遭遇しても適切な医療ケアが提供できるように備えることが不可欠である。

【目的と方法】本研究の目的は療養者及び家族、在宅療養生活を支える訪問看護ステーションの災害時の健康維持・支援行動に関する語りの分析を通して、療養者が抱える疾患や家族の介護力を踏まえた災害時のセルフケアプランモデルに活かすことにある。そのため、在宅療養者及び家族から自らの被災経験と健康リスクへの対応、看護者等の医療職及び関係者から被災時の在宅療養者の支援経験をインタビューにより収集し分析を行った。

【結果と考察】ライフラインが途絶する中での在宅療養者及び家族のセルフケア行動、刻々と変化する環境下での療養者の健康状況を予測しながら行った訪問看護ステーションでの看護実践行動と残った課題についての貴重な語りを得ることができた。いずれの者も災害時のセルフケアプランの必要性をあげた。今後、得られた語りをもとに、療養者を中心にした災害時の医療ケアのあり方を検討し、適切な備えのシステムの構築を目指す予定である。

2-O-3

歯科衛生士教育における臨地実習指導者育成プログラムの開発に関する研究

上原 弘美
上田 和美、門脇 洋子、高藤 真理

今回、歯科衛生士教育における臨地実習指導者育成プログラムを開発することを目的に、他の医療職の臨地実習指導者の育成についての現状を知るとともに、本学科の臨地実習指導者の臨地実習に対する意識、また育成のプログラムの必要性をどのように考えているかのアンケート調査をおこなった。

他の医療職では、それぞれの専門職団体が育成のための研修会を開催し、認定または修了証の発行などをおこなっていた。日本歯科衛生士会にはガイドラインはあるものの研修制度は未だ確立されていない。また本学科の臨地実習施設40施設にアンケート調査を実施、38名（有効回答率95%）から回答を得た。育成プログラムは23名（60.5%）が必要と、また22名（57.8%）が育成プログラムがあれば参加したいと回答した。教育方法・教育心理・臨地実習指導方法・臨地実習評価法などの研修を受けたいと答えている。

臨地実習での効果的な学びのためには臨地実習指導者による指導内容や質を標準的かつ統一的なものにしなければならない。また日々の業務の中で臨地実習指導の意義を指導者自身が認識し、その責務を全うするためにも育成プログラムは必須である。専門職団体である（公社）兵庫県歯科衛生士会と共同で臨地実習指導者育成プログラムの作成を試みたいと考えている。